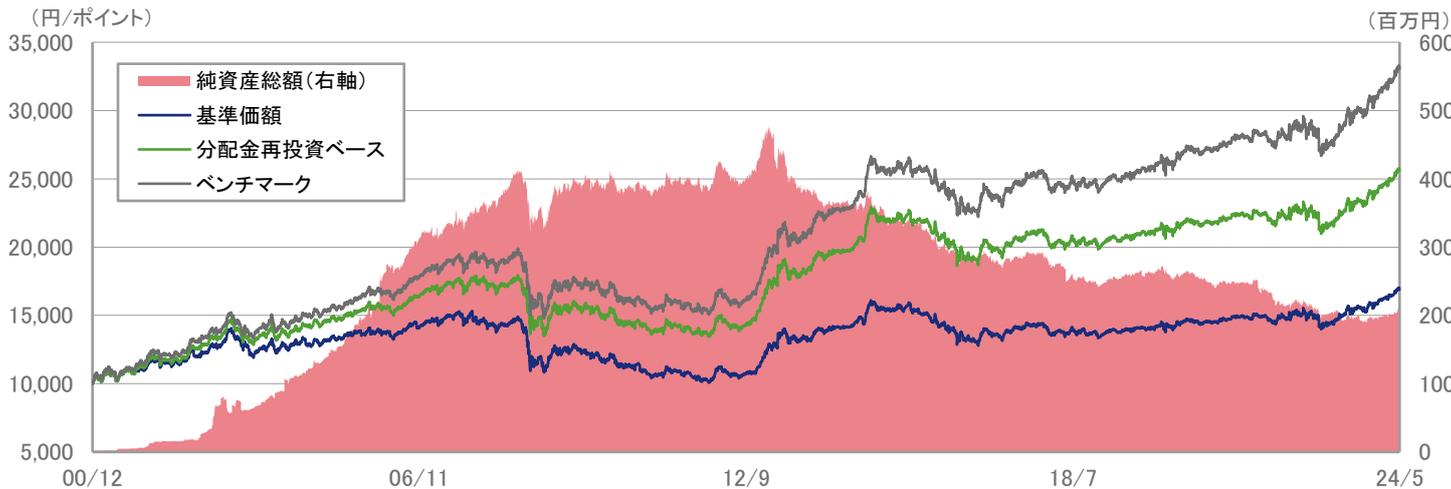


■ 基準価額・純資産総額の設定来推移



※1 分配金再投資ベースは分配金(課税前)を再投資したもとして計算しており、分配金があった場合は実際の基準価額とは異なります。
また、実際のファンドにおいては、課税の条件によってお客様ごとに値は異なります。
※2 ベンチマークの設定来推移は、設定日を10,000として指数化したものです。
※3 上記のグラフは過去のものであり、将来の運用成果を保証するものではありません。

■ 設定来の運用実績

| | 基準価額 (分配金再投資) | | ベンチマーク (FTSE世界国債インデックス(除く 日本、当社円換算ベース)) | | 差異 ①-② (%) |
|-------|------------------|---------|---|---------|------------------|
| | (円) | ①騰落率(%) | (ポイント) | ②騰落率(%) | |
| 当月末 | 25,566 | - | 151,556 | - | - |
| 過去1ヵ月 | 25,439 | 0.50 | 150,600 | 0.63 | -0.13 |
| 過去3ヵ月 | 24,700 | 3.51 | 146,061 | 3.76 | -0.26 |
| 過去6ヵ月 | 23,985 | 6.59 | 141,488 | 7.12 | -0.52 |
| 過去1年 | 22,637 | 12.94 | 132,829 | 14.10 | -1.16 |
| 過去3年 | 22,362 | 14.33 | 128,228 | 18.19 | -3.86 |
| 設定日来 | 10,000 | 155.66 | 45,871 | 230.40 | -74.74 |

※1 基準価額騰落率(分配金再投資)は、当ファンドの決算時に収益の分配金があった場合に、その分配金(課税前)を再投資した場合の騰落率です。
また、実際のファンドにおいては、課税の条件によってお客様ごとに騰落率は異なります。
※2 基準価額騰落率は過去のものであり、将来の運用成果を保証するものではありません。

■ 基準価額と純資産総額

| | 当月末 | 前月末 | 前月末比 |
|----------------|--------|--------|------|
| 基準価額 (円) | 16,882 | 16,798 | +84 |
| 純資産総額 (百万円) | 209 | 205 | +4 |

※ 月中に分配があった場合の基準日の基準価額は、分配金込みです。

| | 基準価額 (円) | 日付 |
|-------|-------------|-------------|
| 設定来高値 | 17,014 | 2024年5月28日 |
| 設定来安値 | 10,000 | 2000年12月22日 |

※1 基準価額は信託報酬等控除後で算出されます。
※2 設定来高値及び設定来安値は分配落ち後の基準価額で、該当した日付が複数日ある場合には、その初日を表示しております。

■ 運用資産構成比率

| ファンド | 比率(%) |
|-------|-------|
| 外国債券 | 97.8 |
| 短期資産等 | 2.2 |
| 合計 | 100.0 |

※1 比率はベビーファンドの実質組入比率(純資産総額比)です。
※2 短期資産等には、コール、CD、CP、現先、未収金、未払金等が含まれます。

■ 分配実績

| 決算年月日 | 分配金 (課税前) (円) |
|------------|---------------------|
| 2023/10/16 | 130 |
| 2022/10/17 | 0 |
| 2021/10/18 | 0 |
| 2020/10/16 | 40 |
| 2019/10/16 | 100 |
| 2018/10/16 | 110 |
| 設定来合計 | 5,389 |

※ 1万口当たりの実績です。

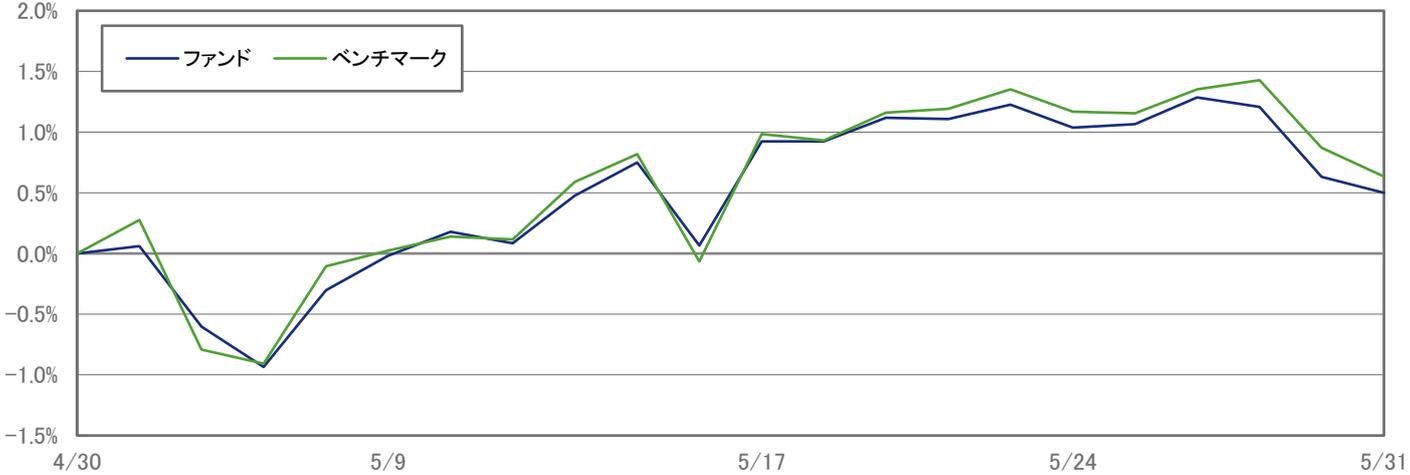
■ 運用概況

当月末の基準価額は、16,882円(前月比+84円)となりました。
また、税引き前分配金を再投資した場合の月間騰落率は+0.50%となり、ベンチマークの月間騰落率は+0.63%となりました。

<運用担当者のコメント>

■ 5月の市場動向と運用状況

当月のパフォーマンス推移



※ 上記のグラフは過去のものであり、将来の運用成果を保証するものではありません。

<参考 / 基準価額の要因分解>

| | (単位: 円) | (単位: %) |
|------------|---------|---------|
| | 基準価額 | 月次騰落率 |
| 2024年5月31日 | 16,882 | - |
| 2024年4月30日 | 16,798 | - |
| 増減 | 84 | 0.50 |
| 債券要因 | 43 | 0.26 |
| キャピタル | -6 | -0.04 |
| うち現物 | (-6) | (-0.04) |
| うち先物 | (-) | (-) |
| インカム | 49 | 0.29 |
| 為替要因 | 61 | 0.36 |
| 小計 | 104 | 0.62 |
| その他要因 | -20 | -0.12 |
| 要因合計 | 84 | 0.50 |

※ 上記の要因分解は、主要項目別に寄与度を概算した参考値です。
※ 月中に分配があった場合の基準日の基準価額は、分配金込みです。

市場動向

米国金利は、予想対比堅調な雇用指標や景況感指標を受け上昇する場面もありましたが、5月米連邦公開市場委員会(FOMC)においてパウエル米連邦準備制度理事会(以下「FRB」という)議長が追加利上げの可能性を否定したことに加え、予想対比軟調な経済指標や、物価指標の高止まりが小休止したことから米国経済の減速が意識され、低下しました。独国内金利は、予想対比軟調な欧州経済指標や欧州中央銀行(以下「ECB」という)高官によるハト派な発言を受けて低下する場面もありましたが、米英長期金利の上昇や、予想対比堅調な欧州物価指標を受けて上昇しました。為替については、ドルは、日本政府による円買い介入や、予想対比軟調な米国経済指標を背景とする米国長期金利の低下が、円高・ドル安圧力となったものの、日米の金融政策格差が意識される環境が継続し、円売り圧力が強まったことや、予想対比堅調な雇用指標を背景に米国長期金利が上昇したことは円安・ドル高圧力となり、横ばい圏で推移しました。ユーロは、日本政府による円買い介入が円高圧力となりましたが、日欧の金融政策格差が意識され円売り圧力が強まったことに加え、予想対比堅調な欧州物価指標を背景に独国内金利が上昇したことから、円に対してユーロ高となりました。

運用担当者のコメントは、受益者向けに投資信託の運用状況を開示するため、ウエリントン・マネージメント・カンパニー・エルエルピー(以下、ウエリントン社)から提供された情報を元に、農林中金全共連アセットマネジメントが作成したものです。ウエリントン社からの情報は、海外市場の月末を基準として提供されており、ファンドの評価基準日とは一日異なります。また、上記コメントは、将来の市況環境の変動、正確性等を保証するものではありません。

ファンドレビュー

5月のファンドのパフォーマンスは前月比+0.50%、ベンチマークのパフォーマンスは前月比+0.63%、ファンドのベンチマークに対する相対パフォーマンスは-0.13%となりました。

当ファンドが組入れているマザーファンド(ドルベース)の5月のパフォーマンスをベンチマークと基準を揃えて比較すると、ファンドのパフォーマンスは以下の要因から、ベンチマークを上回りました。

■ (+) デュレーション戦略はプラス寄与となりました。

米国景気が一段と減速する中、年内にFRBが市場の織り込みよりも多くの利下げを行うと見て、米国国債を期中にオーバーウェイトとしたことは、予想対比較調な米国の雇用指標や2024年1-3月期GDPを受けて、FRBの金融引き締め効果が意識される中、米国国債利回りが低下したことからプラスに寄与しました。

■ (+) 通貨戦略は小幅なプラス寄与となりました。

■ (+) 国別配分戦略は小幅なプラス寄与となりました。

■ (-) イールドカーブ戦略は小幅なマイナス寄与となりました。

■ (+) 信用戦略は小幅なプラス寄与となりました。投資適格社債の選別的な保有はプラスに寄与しました。

今後の市場見通しと運用方針

■ 利下げのタイミングについて、当初、市場では各国中銀が一斉に行うと予想されていたものの、各国間で時期にズレが生じる可能性が高まっています。ECBについては、大きなサプライズがない限り6月に利下げを行うとの見方が大宗を占めており、足許のインフレ指標は、近く利下げが行われる可能性を高めています。一方、FRBは目標の2%に向けたインフレ率鈍化に進展がないとして、政策金利を据え置きました。ユーロ圏の経済回復が継続しているのに対し、米国では、経済成長の緩やかな鈍化と失業率の緩やかな上昇が徐々に明らかになってきています。したがって、2024年におけるFRBの利下げ幅は足許の織り込みよりも大きくなる一方で、ECBの利下げ余地は限定的となる見通しです。各国中銀は最も避けたい結果に対して保険をかけるような政策運営を行っており、インフレの根強さよりも失業率の上昇に対する懸念がより強く現れていますが、この姿勢が政策ミスにつながる可能性は大幅に高まっていると想定しています。重要な点は、各国中銀が短期的に経済を安定させようとする中で、インフレがより長期化する可能性を高めており、より大きな景気変動につながり得るということです。過去6カ月間のグローバル景況感指標は重要だったものの、ほとんど注目されていませんでした。景況感は4月に反落したものの水準は改善しており、トレンドの成長率と同程度かやや下回る水準に留まっています。金利が十分に引き締めることで、大幅な需要後退を起こさなくインフレが持続的に目標水準へ戻るとの見方に疑問を呈するものです。市場は今のところ、先進国における財政悪化に対して楽観的ですが、名目成長率が低下に転じた場合、タームプレミアム(期間に伴う上乗せ金利)は大幅に上昇する可能性があります。コロナ禍の大規模な財政支出後、各国政府は財政赤字の削減に消極的となっていますが、これは、景気回復を更なるショックから守ろうとしていることや、気候変動対策費・防衛費が財政支出の新たな構造的要因となっていることが背景です。このような大幅な財政赤字は、強力なインフレによって名目成長率が上昇し、各国の税収が押し上げられる中で発生しています。しかしながら、各国政府はそのインフレによる税収を蓄えることなく、支出に回しており、財政赤字で示される以上に大幅な財政悪化となっていることが示唆されています。また、2024年後半に行われる米大統領選挙は、経済・財政面で重大な影響を及ぼすと考えます。選挙結果を問わず、コロナ後のインフレの構造的要因は中期的に持続すると見ておりますが、選挙の結果次第ではこのトレンドが加速する可能性があります。トランプ氏の政策提案が実現されれば、関税によって世界的に財供給が減少し、移民の規制によって労働者数が制限され、中期的にインフレが高止まりする見込みです。日本においては、日銀がタカ派姿勢を強めており、足許では金融政策正常化のプロセスについて言及しています。日銀の基本的な考え方は、インフレが目標に到達する見通しである場合、政策金利を中立金利と見られる水準まで段階的に引き上げておくことで、急激な金利調整を回避するというものです。ただし、円安を背景にインフレ率が予想を上回り続けた場合、金融政策正常化のペースが加速する可能性があります。日銀の利上げに対する市場の織り込みは依然として不十分と見られ、日銀のスタンスの変化により、2025年1-3月期までに政策金利が大幅に上昇することを見込みます。こうした中、デュレーション戦略では、引き続き各国・地域の状況を注視しつつ、ポートフォリオ全体のデュレーションを機動的に調整する方針です。ユーロ圏と英国の長期国債をアンダーウェイトとします。一方で、米国国債をオーバーウェイトとしつつ、イールドカーブのスティープ化(長短金利差の拡大)を想定します。一部の小規模開放経済国(オーストラリア、ニュージーランド、カナダ、ノルウェー)の国債をオーバーウェイトとします。また、一部先進国の物価連動国債を選択します。通貨戦略では、一部の先進国通貨(特に豪ドルやニュージーランド・ドル)に対する米ドルのアンダーウェイトを継続しつつ、機動的にポジションを調整する方針です。また、低利回りの一部アジア新興国通貨(特に中国元)をアンダーウェイトとします。信用戦略では、引き続き投資適格の短期社債を選別的に保有します。また、高格付けの政府機関債やカバード・ボンドを愛好します。

■ 債券:

【北米】労働需給の緩和、需要の低迷、緩やかなデシインフレなどを背景に、米国の景気減速がより鮮明になってきました。これまでのところ、FRBはインフレ目標の達成よりも労働市場の悪化を防ぐことに重点を置いています。短期的には、FRBは自身のシナリオどおりに進捗しているとの確証を得て、緩和に踏み切ると見ています。ただし、インフレはピーク時から鈍化しているものの、中期的には、これまでの引き締めがインフレ圧力を目標の2%まで持続的に緩和させられるかは未だ不透明です。FRBは、インフレの上振れリスクよりも、労働市場の悪化を警戒しているように見えます。インフレが目標へ戻る前に、インフレに対して早すぎる勝利宣言を出せば、持続的なインフレ目標の達成に必要なGDPギャップが達成出来ない可能性が高まります。トランプ氏が選出され、関税、移民、財政を巡る政策が実施されれば、市場がインフレ上昇という構造的テーマに再び注目するリスクが増大すると見込まれるため、2024年後半には長期ゾーンを中心とした金利上昇が予想されます。短期的に見ると、景気先行指数や景気に敏感なリスク資産と比較して米国国債利回りは依然高い水準にあると見られます。しかしながら、中期的には構造的なインフレ見通し、インフレ率の不確実性、財政状況の変化へ対応する中で、引き続き金利は上昇する見通しです。こうした中、米国のイールドカーブのスティープ化(長短金利差の拡大)を想定し、米国全体のデュレーションはオーバーウェイトする方針です。

【ユーロ圏】ECBは明らかに金融緩和へ傾斜しているものの、利下げサイクルはECBの想定よりも緩やかになると見ています。ECBは、政策決定を経済指標に依存し、賃金とインフレが低下すると、景気先行指数の更なる確証を得たいものと考えています。目先のインフレ指標は、ECBに9月理事会における利下げ余地をもたらすと見ていますが、①9月以降、コアインフレ率は財の価格上昇を受けた再加速が見込まれること、②景気回復と労働市場の逼迫によって賃金上昇圧力が再び強まるリスクがあることから、引き続き緩やかな利下げサイクルになると見込んでいます。注視すべきリスクの一つは、世界的な保護貿易主義の急進です。欧州が開放的な貿易体制であること、また米国や中国へ戦略的に依存・投資していることに鑑みると、両国の保護貿易主義に対抗することが難しく、貿易摩擦や保護貿易主義の措置の増大に対して脆弱性があります。こうした中、ユーロ圏の国債をアンダーウェイトとします。

【英国】英国の労働市場は、賃金が米欧対比で大きく上昇しており、インフレ要因となっていますが、イングランド銀行(以下「BOE」という)はインフレの沈静化よりも経済成長を強く優先しており、利下げに踏み切ることによって政策ミスが起こる可能性は著しく高いと見ています。しかしながら、足許はインフレ率が高止まりしていることから、年内の利下げ余地は小さくなりつつあり、選挙のタイミングを踏まえると、利下げが見送られる可能性も生じています。こうした中、英国国債をアンダーウェイトとします。

■ 通貨:

【米ドル】米ドルは、先進国通貨に対する割高感や米国の景気減速見通しから、一部先進国通貨に対して徐々に弱含むと見ていますが、一部の新興国通貨に対しては割安な水準です。一方で、一部の低利回りのアジア新興国通貨に対しては、利回り格差によるキャリー取引の上昇を背景に、米ドルは上昇する見込みです。こうした中、米ドルは強弱交錯した見方しつつ、足許では機動的なアンダーウェイトを継続する方針です。

【ユーロ】市場の焦点がFRBとECBの政策格差に移っているため、特にECBがFRBよりも早く利下げを行う場合、米ドルに対するユーロの上昇余地は限定的となる可能性があります。こうした中、ユーロはややネガティブな見方から機動的にアンダーウェイトとする方針です。

【英ポンド】インフレの沈静化よりも経済成長を優先するBOEの姿勢を踏まえて、英国において政策ミスが起こる可能性はかなり高いと見ています。年内の利下げは緩やかなペースとなり、また英国の選挙のタイミングを考慮すると利下げが見送られる可能性もあります。こうした中、英ポンドはポジティブな見方から機動的にオーバーウェイトとする方針です。

※運用担当者のコメントは5月末時点のものです。また、将来の市況環境の変動、正確性等を保証するものではありません。

運用担当者のコメントは、受益者向けに投資信託の運用状況を開示するため、ウエリントン・マネージメント・カンパニー・エルエルピー(以下、ウエリントン社)から提供された情報を元に、農林中金全共連アセットマネジメントが作成したものです。ウエリントン社からの情報は、海外市場の月末を基準として提供されており、ファンドの評価基準日とは一日異なります。また、上記コメントは、将来の市況環境の変動、正確性等を保証するものではありません。

<マザーファンドの運用状況>

■ 国別組入比率とデュレーション

| 国名 | ① 組入比率 (%) | | ② 修正デュレーション(年) | |
|----------|------------|--------|----------------|--------|
| | ファンド | ベンチマーク | ファンド | ベンチマーク |
| 米国 | 50.4 | 46.8 | 5.76 | 5.90 |
| カナダ | 4.5 | 2.0 | 5.13 | 6.59 |
| イギリス | 3.1 | 5.2 | 10.90 | 9.43 |
| ユーロ | 25.9 | 31.2 | 7.68 | 7.16 |
| ドイツ | 1.6 | 6.2 | 12.06 | 7.14 |
| フランス | 8.2 | 7.7 | 7.44 | 7.49 |
| アイルランド | 0.3 | 0.5 | 11.42 | 8.09 |
| イタリア | 6.7 | 7.2 | 6.72 | 6.37 |
| オーストリア | 0.9 | 1.2 | 11.65 | 8.44 |
| オランダ | 1.9 | 1.5 | 6.72 | 7.93 |
| スペイン | 4.5 | 4.8 | 7.08 | 6.72 |
| フィンランド | 0.4 | 0.5 | 9.76 | 7.34 |
| ベルギー | 1.4 | 1.7 | 10.44 | 8.45 |
| ポルトガル | - | - | - | - |
| スウェーデン | 0.1 | 0.2 | 8.55 | 6.00 |
| ポーランド | 0.2 | 0.6 | 7.10 | 3.78 |
| デンマーク | 0.4 | 0.3 | 7.48 | 8.32 |
| ノルウェー | 0.2 | 0.2 | 5.16 | 5.54 |
| オーストラリア | 1.6 | 1.3 | 8.68 | 6.61 |
| シンガポール | 0.4 | 0.4 | 4.61 | 7.52 |
| マレーシア | - | 0.5 | - | 7.47 |
| メキシコ | 1.7 | 0.9 | 3.82 | 5.00 |
| イスラエル | - | 0.3 | - | 6.03 |
| 中国 | 8.0 | 10.0 | 6.73 | 5.69 |
| ニュージーランド | 0.7 | 0.2 | 14.05 | 6.85 |
| その他の国 | 0.9 | - | 4.06 | - |
| 債券合計 | 98.2 | 100.0 | 6.56 | 6.49 |
| その他 | 1.8 | - | - | - |
| 合計 | 100.0 | 100.0 | - | - |

※ 比率は純資産総額対比です。

■ 組入上位10銘柄

| 順位 | 銘柄名 | 国名 | 通貨 | クーポン(%) | 償還日 | 組入比率(%) | 分類 |
|----|---------------------|------|--------|---------|------------|---------|----|
| 1 | T-NOTE 4.875 281031 | アメリカ | 米ドル | 4.875 | 2028/10/31 | 10.8 | 国債 |
| 2 | T-NOTE 3.625 280331 | アメリカ | 米ドル | 3.625 | 2028/3/31 | 6.7 | 国債 |
| 3 | T-NOTE 4.125 290331 | アメリカ | 米ドル | 4.125 | 2029/3/31 | 6.6 | 国債 |
| 4 | T-NOTE 4.125 310331 | アメリカ | 米ドル | 4.125 | 2031/3/31 | 5.5 | 国債 |
| 5 | T-NOTE 3.875 330815 | アメリカ | 米ドル | 3.875 | 2033/8/15 | 4.6 | 国債 |
| 6 | CGB 2.55 281015 | 中国 | 中国人民幣元 | 2.550 | 2028/10/15 | 4.4 | 国債 |
| 7 | T-BOND 1.75 410815 | アメリカ | 米ドル | 1.750 | 2041/8/15 | 3.1 | 国債 |
| 8 | BTPS 4.05 371030 | イタリア | ユーロ | 4.050 | 2037/10/30 | 2.3 | 国債 |
| 9 | BTPS 4.1 290201 | イタリア | ユーロ | 4.100 | 2029/2/1 | 2.1 | 国債 |
| 10 | OAT 2.75 290225 | フランス | ユーロ | 2.750 | 2029/2/25 | 2.0 | 国債 |

※ 比率は外国債券現物対比です。

組入銘柄数: 134銘柄

■ 後掲の「主なリスクと費用」および「留意事項」を必ずお読み下さい。

■ 通貨別組入比率

(%)

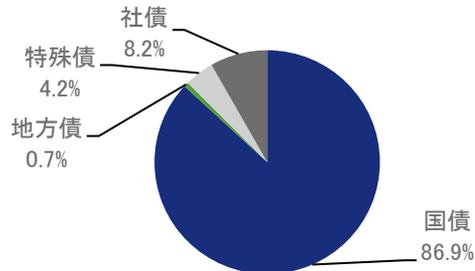
| 通貨 | ファンド | ベンチマーク | 差 |
|----------|------|--------|------|
| 米ドル | 47.2 | 46.8 | 0.4 |
| ユーロ | 31.3 | 31.2 | 0.0 |
| 英ポンド | 5.5 | 5.2 | 0.3 |
| カナダドル | 1.5 | 2.0 | -0.6 |
| その他(円除く) | 14.1 | 14.8 | -0.7 |
| 合計 | 99.5 | 100.0 | -0.5 |

※ 比率は純資産総額対比です。

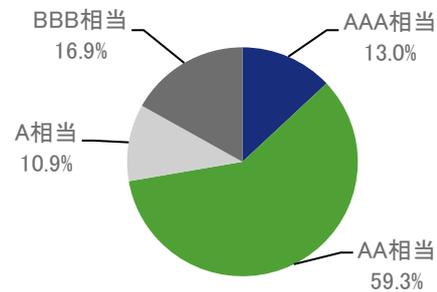
■ 保有債券の属性

| | ファンド | ベンチマーク | 差 |
|--------------|------|--------|------|
| 平均利回り(%) | 4.15 | 3.97 | 0.18 |
| 平均クーポン(%) | 3.33 | 2.55 | 0.78 |
| 平均残存期間(年) | 9.13 | 9.10 | 0.03 |
| 修正デュレーション(年) | 6.56 | 6.49 | 0.08 |

■ セクター別組入比率



■ 格付別組入比率

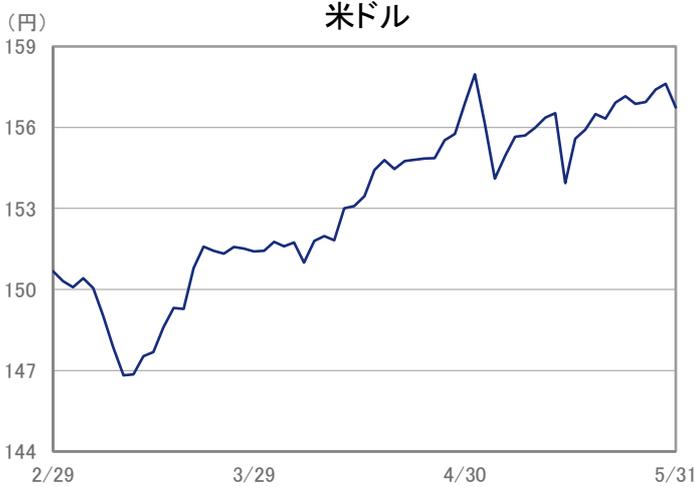


※1 比率は外国債券現物対比です。

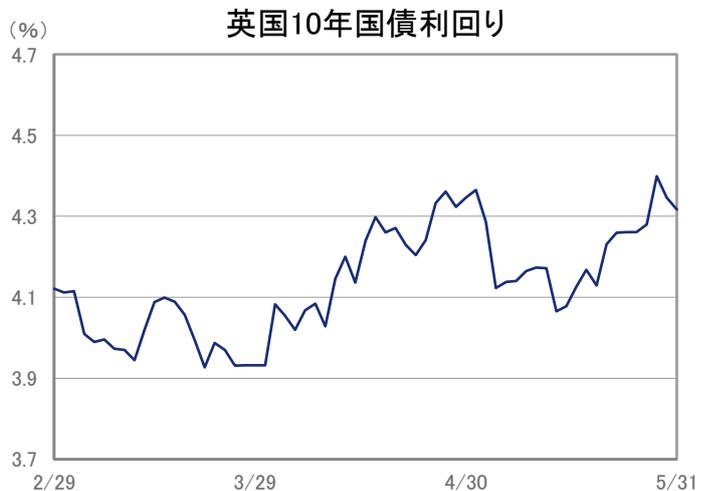
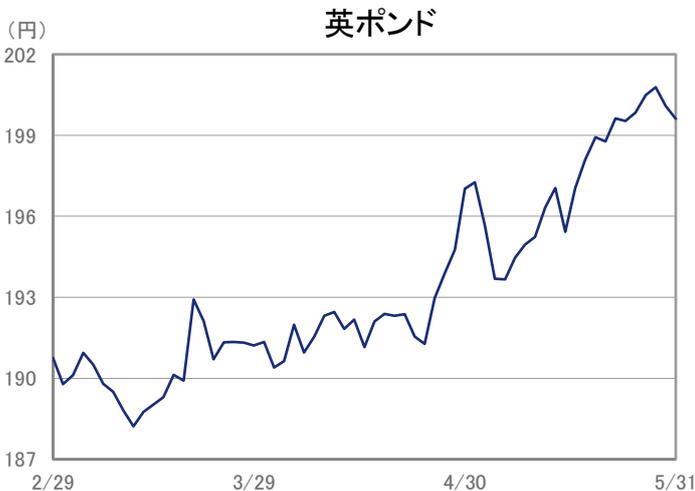
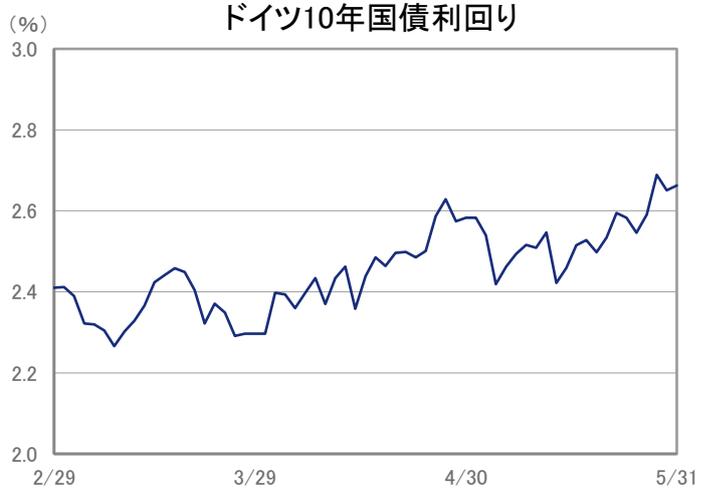
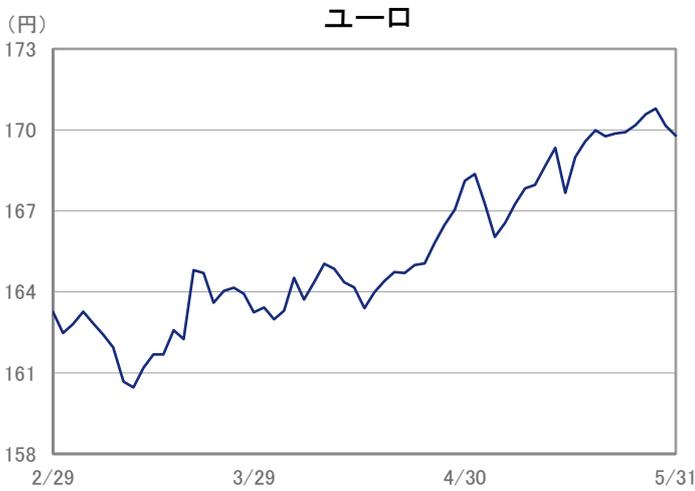
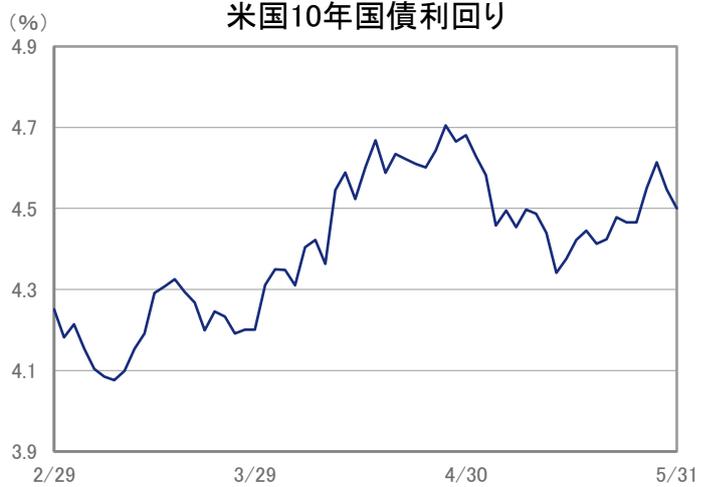
※2 格付けは、原則としてS&P社、Moody's社のうち低位のものを採用しています。

＜参考＞市場動向(マーケット指標の推移)

■ 為替相場



■ 債券市場



当ファンドは、公社債などの値動きを生じる証券(外貨建資産には為替リスクもあります。)に投資しますので、基準価額は日々変動します。従って元金が保証されるものではありません。また、運用の成果は運用の実績により変動します。投資した資産の価値の減少を含むリスクは、投資信託をご購入のお客様に負っていただくこととなります。当資料は当社が信頼できると判断したデータにより作成しましたが、その正確性、完全性等を保証するものではなく、また事前の通知なしに内容を変更する場合があります。投資信託は貯金(預金) 保険制度の対象ではありません。当資料は金融商品取引法に基づく開示書類ではありません。

商品の特色

- 当ファンドは、JA海外債券マザーファンドを主要投資対象とし、マザーファンドを通じて、日本を除く世界各国の公社債を中心に投資を行います。
- マザーファンドの運用にあたっては、ウエリントン・マネージメント・カンパニー・エルエルピー、ウエリントン・マネージメント香港リミテッドおよびウエリントン・マネージメント・インターナショナル・リミテッドに外貨建資産の運用および為替取引の指図に関する権限を委託します。
- 当社が円ベースに換算したFTSE世界国債インデックス(除く日本)をベンチマークとし、ファンダメンタルズ分析と計量分析を併用した手法により運用を行い、ベンチマークを上回る投資成果を目指します。
- ポートフォリオ全体の平均格付(保有している有価証券に係る信用格付けを加重平均したものは、原則としてA格以上を維持することとします。外貨建資産については、原則として対円為替ヘッジは行いません。

■ お申込みメモ

| | |
|-------------------|---|
| 購入単位 | 販売会社が定める単位 |
| 購入価額 | 購入申込受付日の翌営業日の基準価額とします。 |
| 購入代金 | 販売会社の指定する日までにお支払いください。 |
| 換金単位 | 1口単位 |
| 換金価額 | 換金申込受付日の翌営業日の基準価額から、信託財産留保額を差し引いた価額となります。 |
| 換金代金 | 原則として換金申込受付日から起算して5営業日目から支払いを行います。 |
| 申込締切時間 | 原則として午後3時までとなります。(ただし、受付時間は販売会社により異なる場合がありますので、詳細につきましては販売会社までお問い合わせください。) |
| 申込受付不可日 | ニューヨーク証券取引所の休場日またはニューヨークの銀行の休業日には、購入・換金の申込受付を行いません。(詳しくは、販売会社または委託会社にお問い合わせください。) |
| 換金制限 | 信託財産の資産管理を円滑に行うために大口の換金には制限を設ける場合があります。 |
| 購入・換金申込受付の中止及び取消し | 金融商品取引所等における取引の停止等により購入・換金の申込受付が中止または取消しとなる場合があります。 |
| 信託期間 | 無期限(設定日:2000年12月22日) |
| 繰上償還 | 受益権の総口数が5億口を下回った場合などには、繰上償還となる場合があります。 |
| 決算日 | 毎年10月16日(休業日の場合は翌営業日) |
| 収益分配 | 毎年10月の決算時に分配を行います。販売会社との契約によっては、税引き後、無手数料で再投資が可能です。(年1回) |
| 信託金の限度額 | 1兆円を限度とします。 |
| 公告 | 委託会社が投資者(受益者)に対してする公告は、日本経済新聞に掲載します。 |
| 運用報告書 | 毎年10月の決算時及び償還後に交付運用報告書を作成し、販売会社より知れている投資者(受益者)に対して交付します。 |
| 課税関係 | 課税上は株式投資信託として取り扱われます。 公募株式投資信託は税法上、一定の要件を満たした場合に少額投資非課税制度「愛称:NISA(ニーサ)」の適用対象となります。当ファンドは、NISAの対象外です。詳しくは、販売会社にお問い合わせください。 配当控除、益金不算入制度の適用はありません。なお、税制が改正された場合等には変更される場合があります。 |

※確定拠出年金制度に基づく申込の場合は、取扱いが一部異なる場合があります。

※ご購入の際は、必ず「投資信託説明書(交付目論見書)」をご覧ください。

■ 委託会社、その他の関係法人

- 委託会社 : 農林中金全共連アセットマネジメント株式会社(金融商品取引業者 関東財務局長(金商)第372号 一般社団法人 投資信託協会会員/一般社団法人 日本投資顧問業協会会員)
信託財産の運用指図、目論見書および運用報告書の作成等を行います。
: ウエリントン・マネージメント・カンパニー・エルエルピー、ウエリントン・マネージメント香港リミテッドおよびウエリントン・マネージメント・インターナショナル・リミテッド(投資顧問会社)
当ファンドの直接の関係法人ではありませんが、委託会社よりJA海外債券マザーファンドにおける外貨建資産の運用および為替取引の指図に関する権限の委託を受けて投資判断・発注等を行います。
- 受託会社 : 三菱UFJ信託銀行株式会社(再信託受託会社:日本マスタートラスト信託銀行株式会社)
追加信託に係る振替機関への通知等、信託財産の保管・管理・計算等を行います。
- 販売会社 : 最終ページをご覧ください。
ファンドの募集の取扱い・販売、目論見書・運用報告書の交付、一部解約の請求の受付、収益分配金、償還金および一部解約金の支払い等を行います。

主なリスクと費用

下記の事項は、この投資信託(以下、「当ファンド」という。)をお申込みされる投資家の皆様にあらかじめ、ご確認いただきたい重要な事項としてお知らせするものです。

お申込みの際には、下記の事項および投資信託説明書(交付目論見書)の内容をよくお読みください。

■ 当ファンドに係るリスクについて

当ファンドは、主に日本を除く世界各国の公社債を実質的な投資対象としますので、海外金利の上昇による組入公社債の価格の下落や、組入公社債の発行会社等の倒産や財務状況の悪化等の影響により、基準価額が下落し、損失を被ることがあります。また、外貨建資産に投資を行いますので、為替の変動により損失を被ることがあります。

したがって、投資家の皆様の投資元金は保証されているものではなく、基準価額の下落により、損失を被り、投資元金が割り込むことがあります。

当ファンドの基準価額の変動要因としては、主に「金利変動リスク」「為替変動リスク」「信用リスク」などがあります。

※詳しくは投資信託説明書(交付目論見書)の「投資リスク」をご覧ください。

■ 当ファンドの費用

| 投資者が直接的に負担する費用 | |
|---------------------|--|
| 購入時手数料 | <p><通常の申込> 購入申込受付日の翌営業日の基準価額に、販売会社が個別に定める手数料率を乗じた額です。ご購入時の手数料率の上限は1.65%(税抜1.5%)です。</p> <p><確定拠出年金制度に基づく申込> 無手数料</p> |
| 信託財産留保額 | 換金申込受付日の翌営業日の基準価額に0.20%を乗じた額を、換金時にご負担いただきます。 |
| 投資者が信託財産で間接的に負担する費用 | |
| 運用管理費用(信託報酬) | 毎日、純資産総額に年1.32%(税抜1.20%)を乗じた額を計上します。毎計算期間の最初の6ヵ月終了日及び毎計算期間末または信託終了のとき信託財産中から支払われます。 |
| その他の費用・手数料 | <p>監査費用は、毎日、純資産総額に年0.0033%(税抜0.003%)を乗じた額を計上します。毎計算期間末または信託終了のとき信託財産中から支払われます。</p> <p>有価証券売買時の売買委託手数料、先物取引・オプション取引等に要する費用、資産を外国で保管する場合の費用等は、その都度信託財産中から支払われます。</p> <p>※運用状況等により変動するため、事前に料率、上限額等を表示することができません。</p> |

※ファンドの費用の合計額は、投資者の皆様がファンドを保有する期間等に応じて異なりますので、表示することができません。

※ご購入の際は、必ず「投資信託説明書(交付目論見書)」をご覧ください。

留意事項

- 当資料は、農林中金全共連アセットマネジメント株式会社(以下、「当社」といいます。)が作成した販売用資料であり、金融商品取引法に基づく開示書類ではありません。
- 当資料は当社が信頼できると判断したデータ等により作成しましたが、その正確性、完全性等を保証するものではなく、また事前の通知なしに内容を変更する場合があります。市場環境等の見直しにつきましても、その確実性を保証するものではありません。また、将来の運用成果を保証するものでもありません。
- 当ファンドは、公社債などの値動きの生じる証券(外貨建資産には為替リスクもあります。)に投資しますので、基準価額は日々変動します。したがって、元金および収益分配が保証されるものではなく、投資元本を割り込むことがあります。また、運用の成果は運用の実績により変動します。投資した資産の価値の減少を含むリスクは、投資信託をご購入のお客様に負っていただくこととなります。
- 投資信託は預貯金や保険商品とは異なり、預金(貯金)保険機構、保険契約者保護機構の保護対象ではありません。投資信託のお申込みに関しては、クーリングオフの適用はありません。
- ご購入の際は、販売会社より投資信託説明書(交付目論見書)をお渡ししますので、必ずお受取りいただき、詳細をご確認のうえ、ご自身でご判断いただきますようお願いいたします。
- FTSE世界国債インデックス(除く日本・当社円換算ベース)は、FTSE Fixed Income LLCにより運営されている債券インデックス、FTSE世界国債インデックス(米ドルベース)をもとに、FTSE Fixed Income LLCの承諾を得たうえで、当社が独自に円換算したものです。

取扱い販売会社情報一覧表

※ 販売会社は今後変更となる場合、また、下記以外にもお取り扱いを行っている販売会社がある場合があります。
また、販売会社によっては、新規のお申し込みを停止している場合もあります。
詳しくは、販売会社または委託会社の照会先までお問い合わせください。

| 商号 | 登録番号等 | 日本証券業協会 | 一般社団法人 日本投資顧問業協会 | 一般社団法人 金融先物取引業協会 | 一般社団法人 第二種 金融商品取引業協会 | 備考 |
|--------------------|---|---------|---------------------|---------------------|----------------------------|----|
| みずほ証券株式会社 | 金融商品取引業者 関東財務局長(金商)第94号 | ○ | ○ | ○ | ○ | |
| JAバンク (JA/信連/農林中金) | お取り扱いについては、委託会社（農林中金全共連アセットマネジメント株式会社）までお問い合わせください。 (注) 一部のJAバンクでは、お取り扱いがない場合がございます。 | | | | | |

販売会社等につきましては、以下の照会先までお問い合わせください。

■ 農林中金全共連アセットマネジメント株式会社

ホームページ: <https://www.ja-asset.co.jp/>

フリーダイヤル: 0120-439-244 (受付時間: 営業日の午前9時～午後5時)

お申し込み、投資信託説明書(交付目論見書)のご請求は販売会社へお申し出ください。